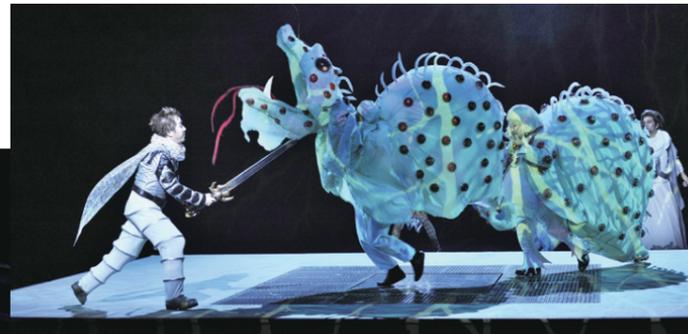


演出の巧みさとあいまって
本物の歌声と音楽が、子どもたちの胸に刻まれた。



劇は最初から最後まで子どもたちが楽しめる内容となっている



子どもたちを作品の中に引き込む演出がうまい



歌声がいつでも頭に響いて
子どもたちには忘れられない
1日になっただろう

担当者より



皆様のご支援により、
子どもたちの笑顔が
見られました。
財団法人 新国立劇場運営財団
支援業務室
前田秀文さん

この公演が終わったあと子どもたちの上気した顔を見ると、やって良かったと思うと同時に、次回はもっと楽しませてあげたいと思わずにはいられません。コスト的な問題で毎回頭を痛めますが、AJOSCをはじめご支援をいただけてありがたく思っております。誌面をかりて心より御礼申し上げます。

た直後ということもあって、子どもたちも真剣だ。

財団法人 新国立劇場運営財団支援業務室の前田秀文さんは

「子どもたちにいろいろな形で舞台芸術に親しんでもらいたいと考えております。しかし、特別に機会を設けるのは難しいので、この機会に見てもらえるようにこのようなアトラクションを用意しました。かなり多くの子どもたちがスタンプラリーに挑戦してくれたようです」と話す。

この公演は3日間で、1日2回公演の計6回の舞台があるが、それでも見ることのできる子どもの数は限られる。本物の舞台芸術を子どもたちに体験させたいという主旨からいうと、まだまだ不足していると前田さんは語る。そこで同財団ではこれまでのような定点公演ではなく、全国各地を巡回できる公演を行おうと考えている。ただし、オペラとなると大がかりにならざるをえないため、現在企画しているのがパレエ公演だそうだ。すでに2009年4月に新国立劇場こどものためのパレエ劇場「しらゆき姫」を上演し、好感感を得ているという。こちらまた子ども向けの演出があるようだが、大人でも存分に楽しめるかと評判だったそうで、お住まいの近くで巡回公演があるときはお子さんを連れて足を運んでみてはいかがだろうか。



当日配布されたプログラム。
TVゲームの解説本のような
デザインで工夫がされている

「少しでも多くの子どもたちを本物の舞台芸術に触れさせたい」それを目的として始まった新国立劇場の「こどものためのオペラ劇場」。回を重ねる毎にファンが広がっている。新たな企画も探りながら、2009年は7月24日～26日の日程で開催された。

子どもたちを出演者気分させる
演出が実にうまい。

新国立劇場が子どもたちの歓声に包まれた。毎年夏休みに開催されている「こどものためのオペラ劇場」である。演目は昨年に続きワーグナーの「ニーベルングの指環」を子ども用にアレンジした「ジークフリートの冒険～指環をとりもどせ！」である。実際の「ニーベルングの指環」は毎日4時間以上のステージを少なくとも4日

間通して見ないと完結しない史上最大のオペラだが、こちらはぐっと短縮して1時間少々にとまとめ、テレビゲームのような演出を加えたものだ。もちろん少しでも多くの子どもたちが見られるように入場料も2,100円と低料金に抑えている。

ステージは最初から盛り上がる。森の小鳥が「こんにちは」というと、いっせいに「こんにちは」が返ってくる。小鳥は子どもたちに「ステージ上の剣は誰にもさわらせてはいけないのだけど、ちょっとの間、自分の代わりに見張っていてほしい」と依頼する。観客なのに出演者的な立場になった子どもたち。そこへ悪役の怪物ファフナーがやってきて剣にふれようとする。子どもたちは「大変だあ」と悲鳴に近い声をあげて猛抗議。早くも物語の中に入り込んでいく。このあたりの演出は実によく考え

られている。

このように随所に子ども向けのアレンジはしてあるものの、音楽は原曲に忠実であり、編曲・指揮の三澤洋史をはじめ、東京フィルハーモニー交響楽団メンバーのアンサンブルなどスタッフ、キャストは超一流である。本物のオペラ歌手の声量のある歌声を聞いて、子どもたちは圧倒され、歌と音楽で物語が進んでいくというオペラの楽しさは十分に理解しただろうし、その歌声は胸に刻まれたことだろう。

アンケートにも「歌声が降りてきて、会場が包まれる体験を子どもに味わわせることができ幸せでした」というような保護者の声が多く寄せられた。成長して本物の「ニーベルングの指環」を見たとき、この日の感動がよみがえってくるかもしれない。

より多くの子どもたちへ。

その願いを新しい企画に込める。

物語は原作とは異なり勧善懲悪のストーリーでテンポよく進み、主人公ジークフリートとヒロインのブリュンヒルデが結婚しHappyエンドで終幕となる。最初に自分たちの見ている前で剣が壊されただけに、子どもたちも最後は拍手喝采だ。終演後は全キャストが客席を回って握手してくれる。オペラとディズニーランドを同時に味わっているような感じだ。

お楽しみはまだ続く。公演が終了した後、新国立劇場内のさまざまな場所を回るスタンプラリーがあるのだ。屋上に上がってみたり、普段は通らないような通路を進んだり、楽しい劇場探検ができる。さらに行った先には衣装や楽器などが陳列されていて、本物の舞台を見